



自然も首都圏も身近な存在！
いつでも帰って来られる
ふるさとを子どもたちに

福島市出身の悟史さんと、伊達市出身の有里恵さんは、2013年に埼玉県で結婚。悟史さんは美容師として、有里恵さんは幼稚園教諭として働きたが、2人の子宝に恵まれました。
転機が訪れたのは、2人目の子が誕生した翌年の2019年のこと。悟史さんはそろそろ独立して自分のサロンを開くことにしたのですが、夫婦揃って福島県出身だったため、お互いの実家の近くで暮らした方が子育ての面からも安心だろうと考え、Uターンを決意しました。「2021年度に長女が小



左から
黒澤 有里恵さん・悟史さん
2人とも福島県出身。埼玉
玉県から2020年にUター
ン。家族4人暮らし。



休日は外でのびのび！無料で利用できる公共の遊び場や自然と触れ合える環境が充実

学校へ入学することも踏まえ、その前年に福島へ引っ越して、1年間地域に慣れ親しむ時間を作った方がいいだろうとも考えたんです。
こうして2019年末に埼玉県の美容室を退職した悟史さんは、翌年1月から単身で福島市の実家に戻り、開業準備、店舗探し、家族4人の住居探しを同時に進めました。有里恵さんは2人の子どもたちと埼玉での生活を続け、2020年3月下旬に退職し福島市へ。新しい環境で家族4人の生活が始まりました。
現在は、ファミリー層が多く住む住宅地の賃貸アパートで暮らしています。悟史さんのサロンは2020年5月にオープンし、リピーターも徐々に増えてきたところ。しばらくは定休日なしで営業すると決めたため、土曜・日曜は有里恵さんが子どもたちを連れて様々な場所へ出かけています。「カフェやパン屋さんが好きでよく行きます。首都圏ではどこに行っても有料駐車場を利用するのが当たり前でしたが、福島は無料の場合が多いので気兼ねなく出かけられて嬉しいです」。市の教育文



サロンは定休日なしで営業。月1回ほどの家族揃っての外出は貴重な団らんタイム

化複合施設『こもこむ』や、さんどパークなど、無料で利用できる子ども向け公共施設の存在にも助かっているそう。
有里恵さんは、保育所に子どもたちを預け、平日は認定こども園で働いています。「病院や保育所、スーパーマーケットなど重要な施設は生活圏に揃っているの、不便だと感じることはありません。野菜の直売所が多いので、旬のおいしい野菜が安く手に入る点も気に入っています」。

移住して良かった点を、次のように話してくれました。「良い子育て環境だと思います。自然のそばで四季を感じながら暮らすことで感受性が養われますし、必要があれば実家にも行けます。一番良かったと思うのは、子どもたちが成長した時、進学・就職で首都圏に行くこともできるし、地元に戻って来られるという選択肢と安心感も与えてあげられること」。十数年先を見据えた愛情がひしひしと伝わってきます。

助かる！ 子育て支援

＼手厚い！／

子どもの医療費の助成

高校3年生まで医療費と入院費が無料。助成を受けるためには、あらかじめ登録の手続きが必要です。
図 福島市役所 地域福祉課 TEL 024-525-3747

＼上手に活用しましょう！／

福島市ファミリーサポートセンター

保育所や放課後児童クラブ、習い事などへの送迎はもちろん、冠婚葬祭などの外出やリフレッシュ時の預かりもOKです！
図 福島市ファミリーサポートセンター TEL 024-526-0612

＼仕事が忙しくても安心！／

こども緊急サポートふくしま

病気などで保育施設等に預けることができないお子さんを預かります。急な発熱時の預かりや受診代行も対応！
図 こども緊急サポートふくしま TEL 024-597-6966

イチオシ！ 子育て支援

- 特色ある幼児教育・保育の推進！
外国語や身体機能向上、芸術・文化・伝統継承など、各施設が実施する個性豊かで特色ある幼児教育・保育の新たな取り組みを支援しています。
図 福島市役所 幼稚園・保育課 TEL 024-525-3750
- 認可保育施設の多子世帯の保育料を軽減します！
一定の所得要件を充たし、18歳未満のお子さんが2名以上いる場合、0～2歳児の保育料は、2人目半額、3人目無料となります。
図 福島市役所 幼稚園・保育課 TEL 024-525-3750
- 放課後児童クラブの多子世帯利用負担を軽減します！
第2子以降の放課後児童クラブ利用料を減額します。
図 福島市役所 こども政策課 TEL 024-525-3767
- 福島らしい思い出に残る給食を提供します！
市内食材を活用して、地産池消を推進し、給食費の負担を軽減！
図 福島市役所 教育施設管理課 TEL 024-525-3706

〈子どもたちの遊び場が充実！〉



SFCももりんパーク

こもこむ